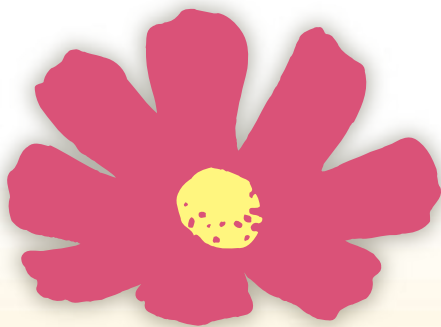




2014 REPORT

千葉興業銀行レポート

ミニ・ディスクロージャー誌

第93期 営業の中間ご報告

平成26年4月1日～平成26年9月30日

目次

ごあいさつ・企業理念	2
経営方針	3
営業の概況	4
地域コーナー	
・ お取引の状況	9
・ CSRの取組み	11
トピックス	17
財務諸表	19
役員・株式の状況	21

当行の概要 (平成26年9月30日現在)

設 立：昭和27年1月
本 店：千葉市美浜区幸町二丁目1番2号
資 本 金：579億4,189万3,949円
従業員数：1,315名



[ちば興銀は、
次世代認定マークを取得しています。]

ごあいさつ



平素より、千葉興業銀行をお引き立て賜り、誠にありがとうございます。

平成26年度中間期の当行の経営内容や業績、CSRの取組み等につきまして、ミニ・ディスクロージャー誌にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

さて、最近の県内経済については、政府の経済対策等の効果によって消費増税前駆け込み需要の反動減も和らぎつつあり、一部に回復の遅れはあるものの、企業の設備投資が改善傾向にあるなど、全体としては緩やかな回復基調を維持しております。そのような中で当行は、千葉県経済のさらなる力強い回復に向けて、地域金融機関としての責務を果たすべくさまざまな取組みを行ってまいります。

現在当行は、平成25-27年度の中期経営計画「変革・成長戦略“2nd Stage”」に基づく戦略施策を積極的に展開しております。「地域の お客さまの ベスト・コンサルタント」となるべく、さらには「選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的 存在感のある銀行」をめざし、当行グループの総力を結集して業務に邁進していく所存です。

なお、当行は昨年の公的資金完済後、平成26年3月期決算における復配を実現し、さらに同8月には外部格付(JCR)が引上げられるなど順調な歩みを続けており、これも皆さまのご支援があつてのことと深く感謝申し上げる次第です。今後とも、より一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成26年11月

取締役頭取・CEO 青柳俊一

企業理念

地域とともに

私たちは、地域とともに歩む銀行として、人々の幸せを求めて、豊かなふるさとづくりに努めます。

お客さまのために

私たちは、積極的にお客さまのニーズに応え、創造性を発揮し、より質の高いサービスの提供に努めます。

「親切」の心で

私たちは、心のふれあいを大切にし、自己を磨き、親切ナンバーワンをめざします。



経営方針

経営方針

当行は、平成25年度からの3カ年にわたる中期経営計画「変革・成長戦略“2nd Stage”」に基づき、当行の目指すべき姿である「地域の お客さまの ベスト・コンサルタント」の実現に向けた取り組みを行っております。

今年は、この取り組みを次年度の総仕上げにつなげる重要な年であり、今後も地域・お客さまのお役に立ち、ともに成長を持続していくための強固な経営基盤の構築と『新ちば興銀』の確立を目指し、具体的な戦略・施策を全行一丸となり取り組んでまいります。

企業理念 地域とともに お客さまのために「親切」の心で

選ばれ続け、地域・お客さまになくてはならない 絶対的存在感のある銀行

地域の お客さまの ベスト・コンサルタント

平成25-27年度「変革・成長戦略“2nd Stage”」

“コア顧客を主柱とした顧客基盤の再構築”

効率性・生産性革新

- 営業店BPRによる営業活動の効率性・生産性の向上
- システム化推進による業務改善と省力化推進
- 営業支援システム・ツールの充実
- 行内分散情報の連動・整備と資産化

収益力・収益構造革新

- 顧客ニーズ基点の営業態勢
- 全行連携での充実したコンサルティング機能の発揮
- 法個人一体取引の推進
- 個人営業強化体制の展開
- マーケット・シェアの拡大

組織力・人材革新

- コンサルティング能力の高い人材の育成・養成
- 人材ポートフォリオの再構築
- 人事諸制度・雇用制度見直し
- 「考え行動する」「挑戦する」人材・組織への転換
- 地域活性化・CSRへの取り組み

財務基盤の強化 リスク・マネジメント強化

平成23-24年度「ちば興銀“変革・成長”戦略」

顧客ロイヤルティ向上



営業の概況

グラフ等に記載の計数および解説文中の計数は単位未満切捨て表示となっております。

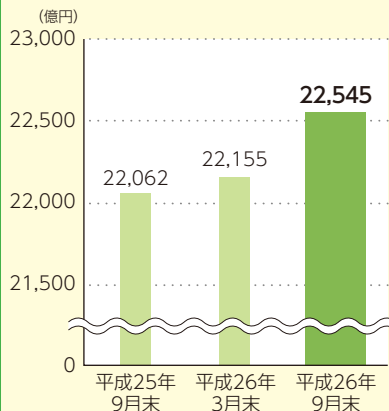
預金・貸出金の状況 ～預金・貸出金は順調に推移～

総預金の当中間期末残高は、前年同期比483億円増加し、2兆2,545億円となりました。特に個人預金については、「マリーンズ応援団定期2014」等がご好評をいただき、前年同期比281億円増加し、1兆7,611億円となりました。

投資信託販売は市場環境の好転もあり、堅調に推移いたしました。その結果、投資信託の預り資産残高は、前年同期比89億円増加し、1,034億円となりました。

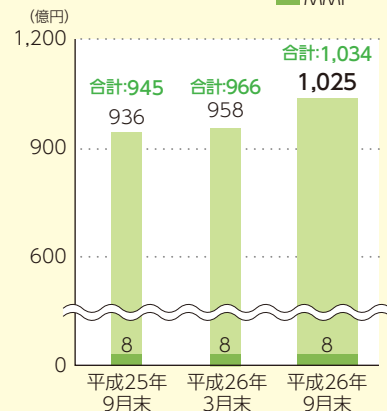
総預金残高

※総預金残高には譲渡性預金を含めております。



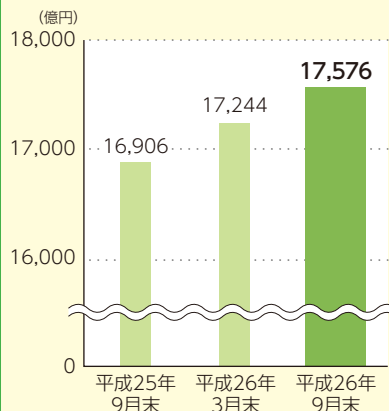
投資信託残高

■ 株式投信
■ MMF

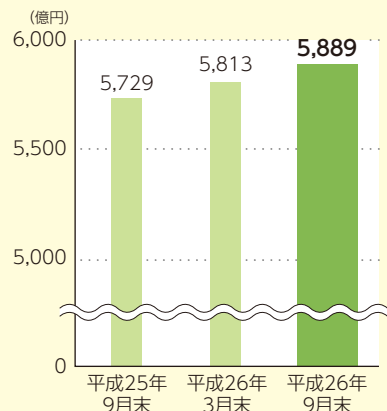


総貸出金の当中間期末残高は、コンサルティング機能の強化に努め、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えした結果、前年同期比669億円増加し1兆7,576億円となりました。住宅ローンについては、住宅販売会社との連携強化等により、前年同期比159億円増加し5,889億円となりました。

総貸出金残高



住宅ローン残高



損益の状況

個人営業を強化し、お客さまの資金運用ニーズにきめ細かくお応えした結果、投資信託や保険商品の販売が増加し、役務取引等収益が増加いたしました。一方、預金および貸出金は順調に増加しましたが、市場金利が低位で推移したことから資金利益は減少しました。また、国債等債券売却益が減少したこともあり、業務粗利益は8億円減少しました。経費は新規採用等で実働人員を増やしたことを主因に2億円増加となり、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、前年同期比10億79百万円減少の50億30百万円となりました。また、コア業務純益^(※)前年同期比6億23百万円減少の50億3百万円となりました。

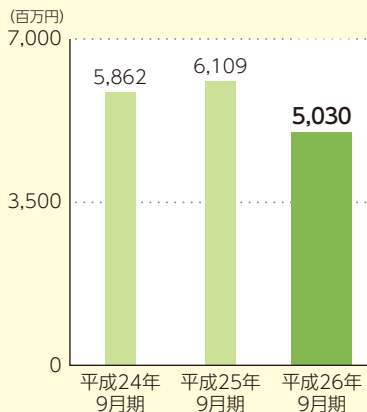
経常利益は、前年同期比前期比2億53百万円減少し、49億77百万円となりました。

中間純利益は、法人税等合計額が減少したことから前年同期比51百万円増加し、42億22百万円となりました。

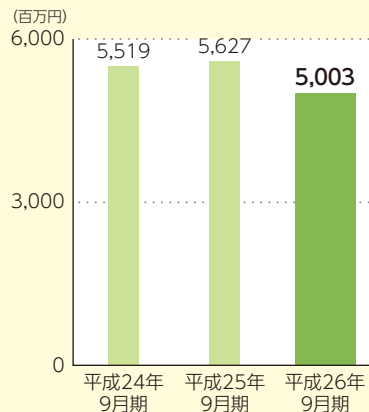
※コア業務純益

業務純益から一般貸倒引当金繰入額、国債等債権関係損益を除いて算出しております。

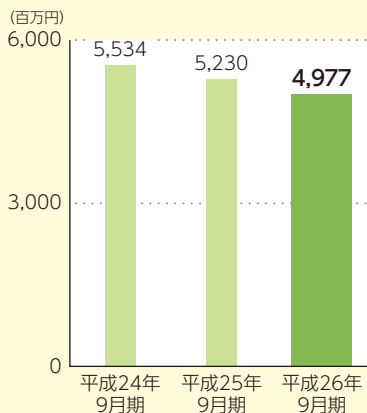
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）



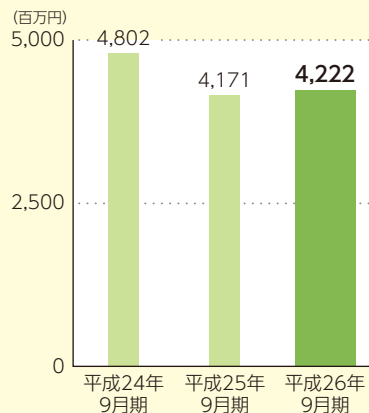
コア業務純益



経常利益



中間純利益



自己資本比率等

平成26年9月末の自己資本比率は、第一回第一種優先株式について平成26年9月12日に全株式を取得し消却を実施したことにより、平成26年3月末比0.23ポイント低下し8.37%となりました。なお、平成26年3月末より、国内基準行向けの新しい自己資本比率規制(バーゼルⅢ)が適用されています。

また、経営の効率性を示す経営指標であるコアOHR^(※1)は、コア業務粗利益の減少や経費の増加により前年同期比2.86ポイント上昇し71.63%となりました。また、収益性の高さを示すROA^(※2)は、コア業務純益が減少し、総資産期中平残(除く支払承諾見返)が増加したことにより、前年同期比0.05ポイント低下し0.41%となりました。

自己資本比率算定明細表

(単位:%・百万円)

	平成26年3月末	平成26年9月末
1. 自己資本比率	8.60	8.37
2. コア資本に係る基礎項目	123,304	122,795
3. コア資本に係る調整項目	102	87
4. 自己資本 2-3	123,202	122,708
5. リスクアセット	1,431,632	1,464,878

※1 コアOHR

(経費対コア業務粗利益率=経費÷コア業務粗利益(除く国債等債券関係損益)×100)

一定の業務粗利益を得るために、どの程度経費がかかっているかを表す指標で、値が小さいほど経営の「効率」の高さを示しています。

※2 ROA《コア業務純益ベース》

(総資産利益率=コア業務純益÷総資産期中平残(除く支払承諾見返)×100)

投下された総資産が利益(コア業務純益)を得るためにどの程度効率的に利用されているかを表す指標で、値が大きいほど経営の「収益性」の高さを示しています。

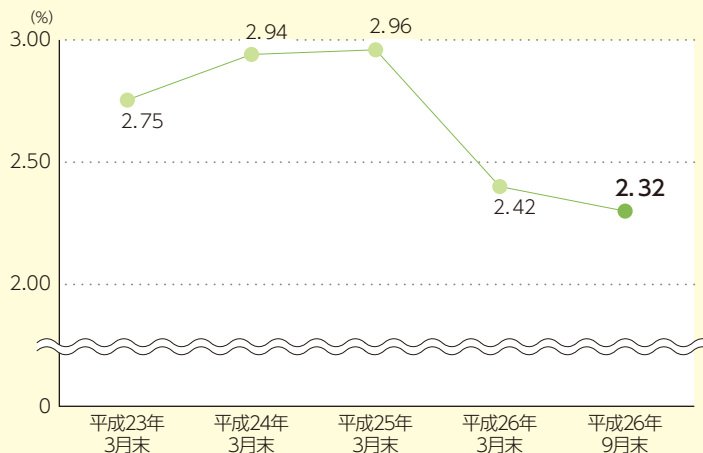
経営改善支援への取組み等

当行は地域金融機関として、従来より、お取引先企業の課題解決に向けた経営改善計画策定支援・経営指導等に積極的に取り組んでおります。国内経済においては緩やかな回復基調にあるものの、お取引先企業の経営環境は引続き厳しい状況にあるとの認識のもと、中小企業金融円滑化法の期限到来後も変わらぬ金融円滑化への取組みとして、特に経営改善計画策定支援とあわせて資金繰り支援についても、本部担当部署および外部コンサルティング会社等を活用したサポート支援を強化しております。

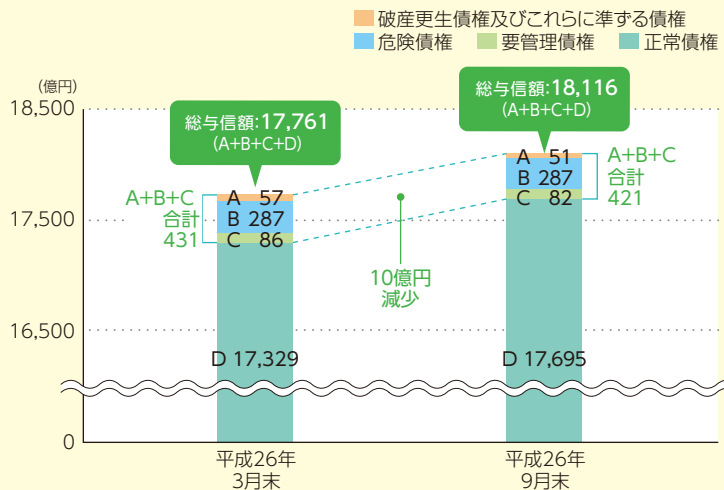
お取引先企業への抜本的な事業再生支援の取組みや不良債権の回収強化に努めた結果、正常債権を除いた金融再生法における「開示債権」の平成26年9月末残高は、平成26年3月末比10億円減少し421億円となりました。また、総与信額に占める割合（開示債権比率）は2.32%となり、平成26年3月末比0.10ポイント改善いたしました。

事業再生支援については、抜本的な事業再生計画策定支援が必要なお取引先企業に対し、地域経済への影響・従業員の雇用確保等を念頭に置きつつ、中小企業再生支援協議会を中心に東日本大震災事業者再生支援機構・産業復興相談センター・外部コンサルティング会社等と連携した再生支援に積極的に取り組んでおります。

金融再生法に基づく開示債権比率



金融再生法に基づく開示債権額比較



格付け

当行は、中立的な第三者による評価を取得し公表することで、投資家の皆さまやお取引先の皆さまに財務内容の健全性や収益性などについてご理解いただくため、平成18年10月に株式会社日本格付研究所(JCR)から長期発行体格付^(※1)取得し公表しております。

格 付 け 「A-(シングルAマイナス)」[1ノッチ引き上げ]

格付け見通し 「安定的」[据え置き]

(格付けの公表:平成26年8月28日)

※1 長期発行体格付:債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

利益配分に関する基本方針

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、健全経営を確保するため内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当に努めていくことを基本方針としております。

普通株式の配当 当期の普通株式の配当につきましては、5月に公表のとおり、本年度末に1株あたり3円の配当をいたしたいと存じます。

優先株式の配当 当期の優先株式の配当につきましては、5月に公表のとおり、本年度末に所定の配当をいたしたいと存じます。

株主優待制度の拡充

日頃のご支援に感謝の意をこめて、ご優待制度の拡充に努めております。平成26年3月31日現在で千葉興業銀行の株式を100株以上所有されている個人・法人の株主さまを対象に「株主優待定期預金」の制度を引続きお取扱いしております(平成26年7月1日～平成27年3月31日)。従来の株主優待制度である「さわやかハロー24」^(※2)とともに、ご利用いただけますようお願い申し上げます。

※2 「さわやかハロー24」

当行の株主さまに無料で、健康や医療に関するご相談をベテランの医師などが電話でお受けするサービスです。健康・医療相談のほか、夜間・休日診療の医療機関ご案内、医療機関情報のご提供、介護などシルバー情報のご提供についてご利用いただけます。



地域コーナー

地域のお客さまとのお取引の状況

当行では預金の大半を地域のお客さまからお預かりしております。

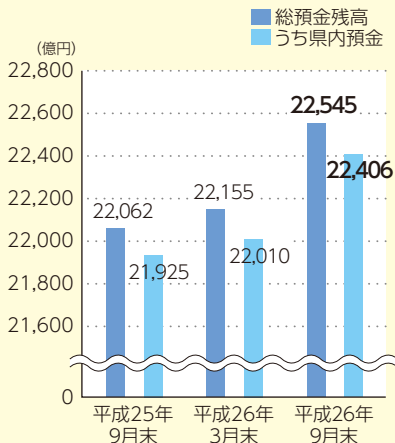
そしてこの大切な預金を県内の企業や個人のお客さまへの貸出しに向けております。

また、平成26年9月末の県内保証協会保証付貸出金は11,265件の1,426億円となっております。

(注) 当行は主要な営業地域を千葉県内としておりますので、千葉県内の営業店舗の合計計数を「県内」計数として表示しております。

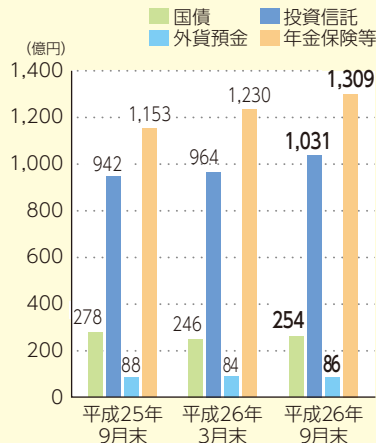
預金残高等

※預金残高には譲渡性預金を含めております。

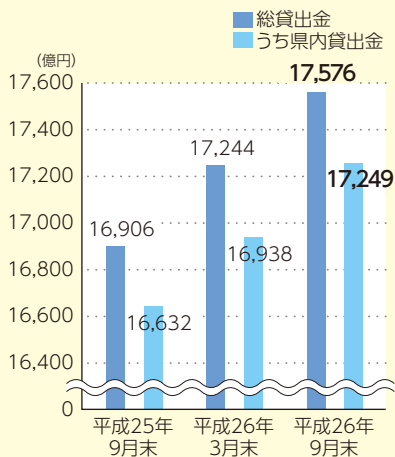


預り資産残高

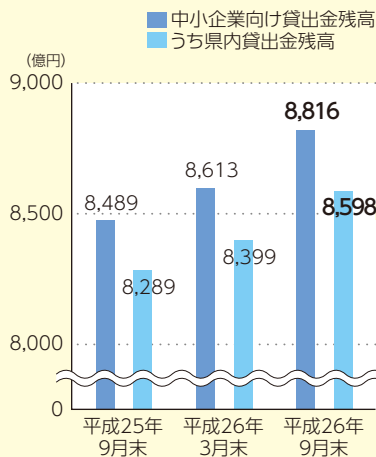
平成26年9月末の預り資産の大半が県内での預り資産です。



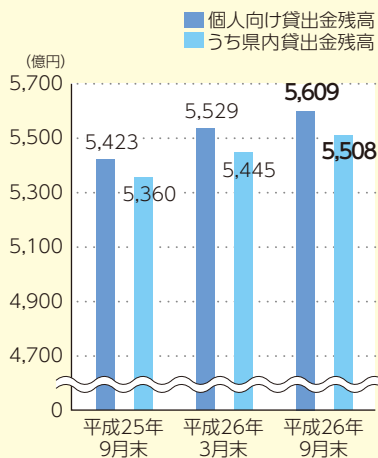
貸出金残高等



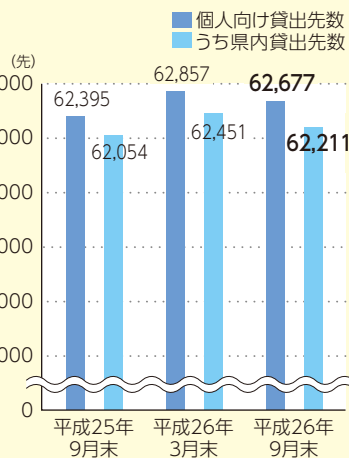
中小企業向け貸出金残高等



個人向け貸出金残高等

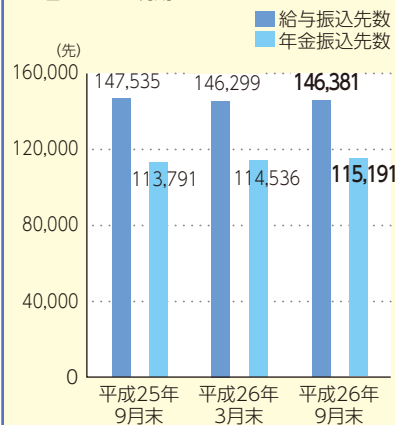


個人向け貸出先数等



給与振込・年金振込の口座数

給与振込や年金振込などについても、多くのお客さまのご利用をいただいております。



業種別貸出金残高

当行は、それぞれの業種において、資金供給者として重要な役割を担っています。

(億円)

平成26年9月末	貸出金残高	うち県内向け
製造業	1,717	1,695
農業、林業	55	55
漁業	2	2
鉱業、採石業、砂利採取業	37	37
建設業	852	849
電気・ガス・熱供給・水道業	69	69
情報通信業	86	85
運輸業、郵便業	713	705
卸売業、小売業	1,735	1,707
金融業、保険業	817	814
不動産業、物品賃貸業	3,857	3,710
各種サービス業	1,736	1,722
地方公共団体	284	284
その他	5,609	5,508
合計	17,576	17,249



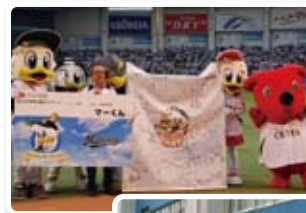
地域活性化に向けた取組み

「マーくんバースデーナイトー presented by ちば興銀」開催

千葉興業銀行では、毎年マッチデーを行っており、今年は8月9日QVCマリンフィールドにおいて「マーくんバースデーナイトー」を開催しました。

「野球の日」である当日、千葉ロッテマリーンズ公式マスコット「マーくん」の誕生日にちなみ、ちば興銀ブースにてサインボールや「マーくん」バースデーデザインのコラボタオルなどが当たる巨大ガラポン抽選会を先着1,500名さまに行ったほか、ラッキーナンバーチラシの配布や、マーくんバースデー・スペシャルストラックアウトなどを行いました。また、試合開始前には来場されたみなさんとバースデーソングを歌ってお祝いするマーくんバースデーパーティーなどさまざまなイベントを開催。マーくんへのプレゼントとして、青柳頭取よりメッセージフラッグと特大のマーくん専用マイドリーム通帳が贈呈されました。

当行は地元金融機関として、今後も千葉ロッテマリーンズを応援するとともに、千葉県の活性化に寄与するための活動を行っていきます。



「がんばろう千葉」キャンペーンへの取組み ～「がんばろう千葉応援隊」に参加～

千葉県が実施する「がんばろう千葉」キャンペーンおよび「がんばろう千葉」応援隊に賛同し、法人として応援隊に加入しており、千葉県経済の活性化を応援するための活動を行っております。

- 「がんばろう千葉」キャンペーンについては、下記千葉県HPをご参照ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/miryoku/ganbaro/index.html>



中小企業育成への取組み

「千葉元気印企業大賞」

平成7年度より、フジサンケイビジネスアイとの共催で、新技術・新製品開発、ユニーク経営など、活力溢れる経営で時代を先取りする中小企業・ベンチャー企業の表彰を通じて、地域企業の発展を支援しております。



次世代経営者育成への取組み

ちば興銀「経営塾」

ちば興銀「経営塾」は、地元企業育成支援・後継経営者育成支援の取組みのひとつとして、平成16年9月に設立されました。幅広い視点で経営を捉えていただくための視察会やセミナーを定期的開催し、これまでに150名を超える塾生に学びの場を提供しております。平成26年10月に第5期生が1年半に亘る活動を修了しました。

最近の活動状況

- 26／ 5 台湾ビジネス視察会
- 26／ 6 営業力強化セミナー
- 26／ 7 反社会的勢力・クレーマー対応セミナー
- 26／ 8 「大切にしたい会社」講座
- 26／ 9 「大切にしたい会社」工場見学
- 26／10 第5期生 修了式



次世代育成への取組み

夏休み体験「サマーキッズスクール2014」開催

県内小学5・6年生を対象にQVCマリンフィールドにて毎年実施している金融教育・しごと体験イベントで、8年連続で開催しております。千葉商科大学教授、伊藤宏一先生を講師として、「お金って何?」をテーマに、お金の意味や使い道などについて学んだ後、当日のマリーンズ戦のプログラムを販売する「しごと」体験により「お金としごと」についての理解を深めていただきました。



千葉県教育委員会が実施する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト2014」を応援

子供たちがスポーツへの夢やあこがれを抱けるよう、トップアスリートの卓越したパフォーマンスを観戦しスポーツの魅力に触れてもらうことに加え、ゲーム運営の舞台裏、球場内の施設見学、スタジアム・スタッフ体験を通じたキャリア体験の場を提供し、「見るスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進を図ることを目的として実施するものです。

当行は、次世代育成支援を地域CSRの基軸としてさまざまな取組みを展開しており、このプロジェクトにも参画しております。



障がい者雇用への取組み

「笑顔いっぱい！フレンドリーオフィス」の認定

千葉県では、障がいのある人の雇用に対する理解と促進を図るため、障がいのある人を積極的に雇用し、障がいのある人もない人も共に働いている事業所を「笑顔いっぱい！フレンドリーオフィス」として認定し公表することで、障がい者雇用促進事業を展開しています。

当行では平成21年3月に初めて認定されており、以後、継続して法定の雇用率を満たすなどの認定要件より、この度、認定が更新されました。

当行は、これからも積極的に、障がいのある人の雇用と障がいのある人もない人も共に働きやすい職場づくりに努めてまいります。



文化・スポーツ活動

「コスモスコンサート」

6月の「千葉県民の日」を祝い、JR千葉駅連結口広場にて、21回目となる県立千葉女子高等学校オーケストラ部によるミニコンサートを開催、地域の皆さまにクラシックや映画音楽などのオーケストラ演奏を間近で親しんでいただきました。



「コスモスセミナー」

千葉県の歴史に関する無料公開講座を当行千葉支店ホールにおいて毎年開催しております。第16回セミナーは「発掘された房総の城跡」をテーマに開催いたしました。



各種スポーツ大会・文化活動への貢献

毎年、当行主催による「千葉興業銀行杯親善ゲートボール大会」を開催しており、多くの県内ゲートボール愛好家の方々にご参加いただいております。その他、千葉県体育協会や千葉県障がい者スポーツレクリエーション協会、千葉県文化振興財団等への協賛・協力も行っております。



「ちばアクアラインマラソン2014」に協賛

平成26年10月に行われた「ちばアクアラインマラソン2014」にオフィシャルスポンサーとして協賛いたしました。また、オフィシャルボランティア団体として、行員・スタッフ100名が大会の運営をサポートしました。



社会奉仕活動

「小さな親切」運動の推進

当行は、33都道府県が参加する全国的組織「小さな親切」運動の千葉県本部として、県内の運動推進をお手伝いしております。「小さな親切」を実行した人に贈られる「実行章」は、平成25年度県内で2,564名が受章されました(累計314千人以上)。当行行員は全員「小さな親切」運動に会員登録しており、地域のボランティア活動や寄付・募金活動等に取組んでおります。



「交通安全意識を啓蒙」

当行と千葉日報社が共同で設立した「コスモス交通安全協力会」より、県内新中学1年生へ地域ごとにスポークライト(自転車事故防止用反射板)を毎年贈呈しております(20年間で延べ240,900個)。また、県の交通安全推進委員会が推進する交通安全運動期間に、交通安全リボンを全行員・スタッフが着用し、交通安全意識の啓蒙に努めております。



寄付活動の実施

行員やお客さまから集めた不要衣料品を千葉県民間病院協会会員である柏戸病院と千葉みなと病院へ毎年寄贈しております。また、全店から集めた古切手・使用済テレカ等は、千葉市社会福祉協議会ボランティアセンターへ寄贈しており、車椅子購入やボランティア活動資金として利用されております。当行役職員による募金活動「ともしびの会」では毎年年末に県内の養護施設などへ浄財を寄付しております(37年間で延べ337施設4,204万円)。



献血活動の実施

「日本赤十字社献血サポーター」登録企業として、毎年春・秋の2回、本店の行員・スタッフが多数献血に協力しております。



環境への取組み

「緑のカーテン運動」

環境にやさしい街づくりをめざす「緑のカーテン」運動として、営業店壁面にてパッションフルーツの栽培に取り組んでおります。平成26年度からは地域の幼稚園・保育園の皆さまにも運動に参加していただいております。

※「緑のカーテン運動」：光合成によるCO₂の吸収を図るとともに、夏の強い日差しを遮り、空調負荷の低減をめざす壁面緑化活動です。



環境美化活動

例年、春の県下一斉ゴミゼロ運動に行員・スタッフおよびその家族がボランティア参加しております（全部室店参加総数約1,000名）。また、国道14号・357号沿線の12企業・団体が組織される「国道をきれいにする会」に参加し、毎月沿道の清掃を実施するほか、各地域の環境美化活動にも積極的に参加しております。



「ちば興銀の森」

「日本の森を守る地方銀行有志の会」会員行として、千葉県との「法人の森協定」締結により、塩害や松くい虫などの影響により壊滅状態にある匝瑳新堀海岸県有林の再生をめざして、平成26年4月より「ちば興銀の森」活動を開始いたしました。今後5年間で5,000本のクロマツ・マサキ・トベラ等の植栽と草刈などによる海岸保安林再生活動を展開してまいります。



商品・サービスの拡充

中堅・中小企業の海外進出サポートを強化！

地方銀行全国初！海外専用プリカ 「コーポレート・キャッシュパスポート」取扱開始

平成26年4月

企業の海外出張や海外赴任の決済ニーズに対応した海外プリカ「コーポレート・キャッシュパスポート」の紹介業務を開始しました。開始6ヵ月で紹介先数は80企業を超え、約半数近くの企業が成約しております。



Master Card®キャッシュパスポート

●海外プリカ「コーポレート・キャッシュパスポート」について

- ・企業の海外出張や海外赴任で発生する出張者の経費立替負担や、銀行両替で発生する為替手数料の削減ニーズに対応。
- ・世界中のMaster Cardネットワークが利用可能。
- ・本商品の利用方法は、海外出張や海外赴任に必要な資金を予め日本でカードに入金し、出張者がカードを所持して渡航します。出張者は渡航先の国に設置されたMaster Card提携ATMで現地通貨の引出しやMaster Card加盟店でデビットカードとして決済が可能となります。

ASEAN(東南アジア諸国連合)への日系企業進出支援体制を強化！ ～株式会社 フォーバルと業務提携開始！～

平成26年5月

中堅・中小企業等のASEAN地域への進出支援をさらに強化するため、株式会社 フォーバルと業務提携を行いました。同社は、ベトナム南部のニョンチャックⅢ工業団地において、現地国営デベロッパーであるTINNING HIA CORPORATION(ティンギア コーポレーション)と協力し、日系企業専用レンタル工場を展開しています。今回の提携により、当行は同工業団地内に、当行が紹介する企業への専用区画を6区画設置しております。



※現地工業団地視察の様子

●締結した業務協力の内容

- ・同社が提供するベトナム南部ニョンチャックⅢ工業団地内に当行紹介先専用区画の設置
- ・同社が拠点を持つASEAN諸国(ベトナム、インドネシア、カンボジア、ミャンマー)への進出支援コンサルティング
- ・当行取引先に対するセミナーやイベントの開催

「ちば興銀ダイレクト」を全面リニューアル！

平成26年10月

個人向けインターネットバンキング「ちば興銀ダイレクト」を全面リニューアルいたしました。新たに通帳を発行しない「WEB通帳」（通帳不発行口座）を導入したほか、外貨預金や積立式定期預金の取引が可能になり、投資信託取引がスマートフォン専用画面からできるようになるなど多くの機能サービスを追加しております。

また、あわせて画面デザインを一新し、より見やすく操作性が向上しております。

お客さまにとってより便利なインターネットバンキングとなるよう、今後も更なる内容の充実を図ってまいります。

※追加した機能サービスの詳細については、当行HP（『各種商品・サービス』⇒『ちば興銀ダイレクト』）をご参照ください。



ちば興銀では、今後も積極的に商品・サービスの拡充に取り組んでまいります。

「お客さまに一層ご利用いただきやすい」店づくり

真砂支店・移転開店

平成26年5月

新店舗はJR京葉線検見川浜駅北口のイズミヤ検見川浜店内1階にあり、今回の移転で真砂支店はインスタブランチ型の店舗になりました。

旧店舗と比べてコンパクトな店舗ですが、個別相談ブースや全自動貸金庫設置のほか、多目的に利用可能な小型セミナールームを設置。駐車場も共同利用で約300台分が利用可能なため、より多くのお客さまにご利用いただきやすい店舗となりました。





財務諸表

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第93期中(平成26年9月30日現在)中間貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	72,812	預 金	2,248,362
コールローン	5,000	譲 渡 性 預 金	6,230
買入金銭債権	838	借 用 金	9,049
商品有価証券	123	外 国 為 替	9
有 価 証 券	537,816	そ の 他 負 債	16,104
貸 出 金	1,757,654	未 払 法 人 税 等	136
外 国 為 替	2,513	リ ー ス 債 務	1,565
そ の 他 資 産	6,820	そ の 他 の 負 債	14,403
その他の資産	6,820	退職給付引当金	6,322
有形固定資産	20,021	睡眠預金払戻損失引当金	739
無形固定資産	2,028	支 払 承 諾	15,795
繰延税金資産	13,523	負債の部合計	2,302,613
支払承諾見返	15,795	(純資産の部)	
貸倒引当金	△10,337	資 本 金	57,941
資産の部合計	2,424,612	資 本 剰 余 金	2,792
		資 本 準 備 金	2,792
		利 益 剰 余 金	51,101
		利 益 準 備 金	4,077
		その他利益剰余金	47,023
		繰越利益剰余金	47,023
		自 己 株 式	△67
		株 主 資 本 合 計	111,768
		その他有価証券評価差額金	10,225
		評価・換算差額等合計	10,225
		新 株 予 約 権	5
		純資産の部合計	121,998
		負債及び純資産の部合計	2,424,612

第93期中(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)中間損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額	科 目	金 額
経 常 収 益	21,523	経 常 費 用	16,545	特 別 損 失	35
資金運用収益	15,581	資金調達費用	599	税引前中間純利益	4,942
(うち貸出金利息)	(12,430)	(うち預金利息)	(532)	法人税、住民税及び事業税	126
(うち有価証券利息配当金)	(2,905)	役務取引等費用	1,958	法人税等調整額	593
役務取引等収益	4,279	その他業務費用	178	法人税等合計	719
その他業務収益	542	営 業 経 費	13,033	中 間 純 利 益	4,222
その他経常収益	1,120	その他経常費用	775		
		経 常 利 益	4,977		

第93期中(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)中間株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株 主 資 本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	資本剰余金	利益剰余金	利益剰余金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
						繰越利益剰余金			
当期首残高	57,941	2,792	1,773	4,566	3,636	48,491	52,128	△66	114,570
会計方針の変更による累積的影響額						238	238		238
会計方針の変更を反映した当期首残高	57,941	2,792	1,773	4,566	3,636	48,730	52,366	△66	114,808
当中間期変動額									
剰余金の配当					440	△2,645	△2,204		△2,204
中間純利益						4,222	4,222		4,222
自己株式の取得								△5,058	△5,058
自己株式の消却			△ 5,056	△ 5,056				5,056	-
利益剰余金から資本剰余金への振替			3,283	3,283		△ 3,283	△ 3,283		-
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)									
当中間期変動額合計	-	-	△1,773	△1,773	440	△1,706	△1,265	△1	△3,040
当中間期末残高	57,941	2,792	-	2,792	4,077	47,023	51,101	△67	111,768
		評価・換算差額等							
		その他有価証券評価差額金	新株予約権	純資産合計					
当期首残高	7,347	7,347	-	121,917					
会計方針の変更による累積的影響額				238					
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,347	7,347	-	122,156					
当中間期変動額									
剰余金の配当				△2,204					
中間純利益				4,222					
自己株式の取得				△5,058					
自己株式の消却				-					
利益剰余金から資本剰余金への振替				-					
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	2,877	2,877	5	2,882					
当中間期変動額合計	2,877	2,877	5	△157					
当中間期末残高	10,225	10,225	5	121,998					

第93期中(平成26年9月30日現在)中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	72,850	預 金	2,238,122
コールローン及び買入手形	5,000	譲 渡 性 預 金	6,230
買入金銭債権	838	借 用 金	22,025
商品有価証券	123	外 国 為 替	9
有 価 証 券	537,631	そ の 他 負 債	21,452
貸 出 金	1,752,467	退職給付に係る負債	8,035
外 国 為 替	2,513	役員退職慰労引当金	49
そ の 他 資 産	28,640	睡眠預金払戻損失引当金	739
有形固定資産	20,004	支 払 承 諾	15,798
無形固定資産	2,507	負 債 の 部 合 計	2,312,464
繰延税金資産	14,332	(純資産の部)	
支払承諾見返	15,798	資 本 金	57,941
貸倒引当金	△13,377	資 本 剰 余 金	2,792
資産の部合計	2,439,332	利 益 剰 余 金	54,645
		自 己 株 式	△68
		株 主 資 本 合 計	115,312
		その他有価証券評価差額金	10,244
		退職給付に係る調整累計額	△1,004
		その他の包括利益累計額合計	9,240
		新 株 予 約 権	5
		少 数 株 主 持 分	2,310
		純資産の部合計	126,868
		負債及び純資産の部合計	2,439,332

第93期中(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
経 常 収 益	25,882	経 常 費 用	20,658
資金運用収益	15,092	資金調達費用	674
(うち貸出金利息)	(12,438)	(うち預金利息)	(531)
(うち有価証券利息配当金)	(2,409)	役務取引等費用	1,494
役務取引等収益	4,680	その他業務費用	178
その他業務収益	542	営 業 経 費	13,153
その他経常収益	5,566	その他経常費用	5,157
		経 常 利 益	5,224
		特 別 損 失	36
		税金等調整前中間純利益	5,187
		法人税、住民税及び事業税	337
		法人税等調整額	629
		法 人 税 等 合 計	966
		少数株主損益調整前中間純利益	4,221
		少 数 株 主 利 益	145
		中 間 純 利 益	4,075

第93期中(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			新 株 予 約 権	少 数 株 主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株主 資本 合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	その他の 包括利益 累計 額 合 計			
当 期 首 残 高	57,941	4,566	55,819	△66	118,260	7,363	△1,251	6,112	—	2,120	126,493
会計方針の変更による累積的影響額			238		238						238
会計方針の変更を反映した当期首残高	57,941	4,566	56,057	△66	118,499	7,363	△1,251	6,112	—	2,120	126,732
当中間期変動額											
剰 余 金 の 配 当			△ 2,204		△2,204						△ 2,204
中 間 純 利 益			4,075		4,075						4,075
自己株式の取得				△ 5,058	△5,058						△ 5,058
自己株式の消却		△ 5,056		5,056	—						—
利益剰余金から資本剰余金への振替		3,283	△ 3,283		—						—
前主幹会以外の項目の当中間期変動額(注脚)						2,880	247	3,128	5	189	3,323
当中間期変動額合計	—	△1,773	△1,412	△1	△3,187	2,880	247	3,128	5	189	135
当中間期末残高	57,941	2,792	54,645	△68	115,312	10,244	△1,004	9,240	5	2,310	126,868



役員・株式の状況

役員 (平成26年11月30日現在)

取締役頭取・CEO	青柳	俊一
取締役副頭取・COO	梅村	星児
専務取締役・専務執行役員	星野	智史
常務取締役・常務執行役員	岡本	繁雄
常勤監査役	田仲	直樹
常勤監査役	稲葉	保実
監査役	原口	秀夫
監査役	鈴木	伸弥

(注) 監査役原口秀夫氏および鈴木伸弥氏は、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2にいう独立役員であります。

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

1 株式数

株式の種類	発行可能株式総数	発行済株式の総数
普通株式	296,000千株	50,722千株
第二回第二種優先株式	5,000千株	5,000千株
第四回第四種優先株式	7,500千株	6,400千株

2 株主数

普通株式	10,743名
第二回第二種優先株式	1名
第四回第四種優先株式	165名

3 大株主

株式の種類	株主の氏名又は名称	当行への出資状況	
		持株数等 (千株)	持株比率 (%)
普通株式	株式会社みずほ銀行	9,583	18.91
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,323	2.61
	坂本飼料株式会社	1,249	2.46
	明治安田生命保険相互会社	1,158	2.28
	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,088	2.14
	みずほ信託銀行株式会社	926	1.82
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	859	1.69
	千葉興業銀行行員持株会	784	1.54
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	684	1.35
	京葉瓦斯株式会社	587	1.16
第二回第二種優先株式	株式会社みずほ銀行	5,000	100.00
第四回第四種優先株式	沖電気工業株式会社	300	4.68
	大成建設株式会社	300	4.68
	東京建物株式会社	300	4.68
	丸紅株式会社	300	4.68
	キッコーマン株式会社	200	3.12
	明治安田生命保険相互会社	200	3.12
	安田不動産株式会社	200	3.12
	株式会社 ヤクルト本社	180	2.81
	株式会社クレックス	160	2.50
	芙蓉総合リース株式会社	160	2.50

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
3. 普通株式の持株比率は自己株式(59,545株)を控除して、算出しております。

株式のご案内

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 配当受領
株主確定日 期末配当:毎年3月31日
中間配当:毎年9月30日
- 定時株主総会 毎事業年度終了後3か月以内に開催
- 基準日 定時株主総会については、毎年3月31日
その他必要あるときはあらかじめ公告
する一定の日
- 単元株式数 100株
- 公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞
なお、決算公告につきましては、
当行ホームページの下記アドレスに
掲載いたします。
[http://www.chibakogyo-bank.co.jp/
toushi/ir/koukoku.html](http://www.chibakogyo-bank.co.jp/toushi/ir/koukoku.html)
- 株式事務取扱場所
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店 証券代行部

■ 単元未満株式の買取請求について

単元未満株式をご所有の場合、その単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度（買取制度）がございますので、どうぞご利用ください。

特別口座に記録された株式の買取請求については、下記株主名簿管理人（特別口座管理機関）において受付けております。また、証券会社等の口座に記録された株式の買取請求については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

■ 特別口座株式のご売却について

特別口座にて管理されている単元株式を売却されるには、事前に証券会社等の口座を開設し、その後振替手続を行っていただく必要があります。お手続き等の詳細は下記株主名簿管理人（特別口座管理機関）にお問い合わせください。

株主名簿管理人（特別口座管理機関）

みずほ信託銀行株式会社

■ お問合せ先（郵便物送付先）

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324

株主様のご住所・お名前等に関する文字についてのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等（いわゆる「外字」）が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。

株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



〒261-0001 千葉市美浜区幸町二丁目1番2号

TEL.043-243-2111

<http://www.chibakogyo-bank.co.jp/>